

**消費者教育講演会を開催**  
木久扇師匠が予防策を熱く語る

2月13日、市民会館（手代町）で、落語家の林家木久扇師匠を招き「消費者教育講演会」が開催されました。この講演は、悪質商法やなりすまし詐欺の被害が後を絶たないことから、白河警察署の協力を得て、楽しみながら予防策を学んでもらおうと開かれたものです。

木久扇師匠は、約1,000人の来場者を前に、ユーモアあふれる話を交えながら、「怪しい話は家族や親しい人に相談、一人で判断しない」など被害者にならないための知恵を語りかけていました。



▲笑いを誘いながら語る木久扇師匠

**災害時におけるLPガス等の供給協力に関する協定**  
災害時の安全と安心を確保

2月3日、白河市と西白河郡4町村は、県LPガス協会白河支部と「災害時におけるLPガス等の供給協力に関する協定」を締結しました。

この協定は、東日本大震災の燃料不足の教訓を踏まえ、LPガス等の供給を優先的に受けることで、住民生活の安全・安心を確保することを目的としています。これにより災害時には、LPガスをはじめ、炊事用具、給湯器具、暖房器具、発電機などの供給を受けることができるようになりました。



▲締結式の様子

**中心市街地活性化基本計画（案）に対する意見書**  
一層の連携・協力を確認

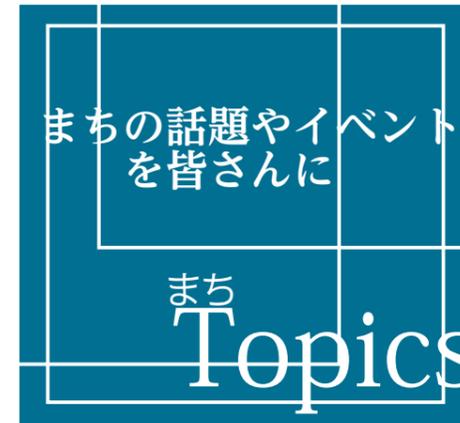
1月29日、市が策定した「第2期白河市中心市街地活性化基本計画（案）」について、白河市中心市街地活性化協議会の牧野富雄会長から鈴木市長に「おおむね妥当」とする意見書が提出されました。

この第2期計画は、第1期で整備した市立図書館や楽蔵などの拠点の活用促進を含め、多岐にわたるソフト事業を重点的に盛り込んだ内容となっています。

市では、意見書を付した基本計画を内閣総理大臣に申請し、3月までの認定を目指します。



▲鈴木市長に意見書を手渡す牧野会長（右）



▲福を求める来場者でにぎわう会場

**春の訪れを告げる「白河だるま市」**  
福を求めて大勢の人でにぎわう

前々日の大雪とは打って変って、快晴となった2月11日、恒例の白河だるま市が市内の天神町・中町・本町で行われ、約15万人の人でにぎわいました。通りには約700軒の露店が立ち並び、訪れた人たちは、だるまを売る威勢の良い掛け声に誘われ、福を買い求めていました。また、マイタウン白河では、ラーメン部会加盟5店舗による本格白河ラーメンが提供され、来場者は、限定のラーメンに舌鼓を打っていました。

ほかにも同会場で「手づくり甲冑絵巻展」が、JR白河駅前イベント広場で「白河ご当地キャラ・ヒーローフェスタinだるま市」が同時開催され、それぞれにたくさんの方が訪れ楽しんでいました。



▲限定ラーメンを食べる子どもたち

**第19回中山義秀文学賞贈呈式・受賞記念講演会**  
「戦国時代の九州」の覇権争いを語る

1月25日、市立図書館（道場小路）で、「第19回中山義秀文学賞贈呈式・受賞記念講演会」が行われ、受賞作「破天の剣」の作者、天野純希さんに正賞と副賞が手渡されました。

贈呈式後の記念講演会では、天野さんが「戦国時代の九州」をテーマに、受賞作にまつわる登場人物や、現地に行って調査したこと等を話されました。参加者は、九州で繰り広げられた覇権争いの話に、興味深く聞き入っていました。



▲講演をする天野さん